



平成23年3月11日 九州新幹線 博多～鹿児島間前線開業前日、丁度お昼時でした。宮城県松島基地所属航空自衛隊のブルーインパルスが九州新幹線前線開業セレモニーのための編隊飛行訓練をしているのを研修参加のために訪れていた九州ビル9階窓から眺めていました。

それから間も無い14時46分 東北地方太平洋沖地震が発生30～60分後には10mに及ぶ大津波が太平洋側東北三県沿岸部に押し寄せていたのです。研修を終え帰宅した時から10日以上、震災報道に目を向けなければならない国民の1人となりました。

皆さんは震災報道を見ながら何をお考えになりましたか？私は被災された方々に会った時、「何と言って声を掛ければ良いのだろう」ということばかり考えていました。やがて掛ける言葉が私には備わっていないという事に気がきます。そんな無駄な思考を巡らせる時間があるなら、今、被災地に対して出来る事を考えるべきではないかと・・・

ということで、8月6日～12日の7日間の日程で宮城県への復興支援活動を行って参りました。往路2日・復路2日、計4日の陸路3,400km走破を伴う現地活動3日間のレポートです。

皆さんもご存知のとおり、津波によってありとあらゆる物が流されました。様々な被災地ニーズの中で特に車両の入手が大変困難な中、介護サービス事業所においてはリフト付きの特殊車両やマイクロバスは数が少ないため被災事業所の重要なニーズとなっていました。

県南筑後地区の同事業者仲間との雑談の中で、田主丸の社会福祉法人ひじり会さん所有の訪問入浴車が低稼働状態であるとの話から、被災地への譲渡が出来ないかという事が発端となり、旧夜須町（現筑前町）より譲渡された当法人（朝老園）のリフト付きマイクロバスを含め2台について、4月下旬に東北へ譲渡方打診を行い、7月下旬、宮城県石巻市の特養にマイクロバス、同県柴田郡柴田町の特養に訪問入浴車の譲渡が決定しました。譲渡先決定に実に3ヶ月を有しました。



## 人生の最期をあなたはどのように過ごしたいですか？

誰にでもおとずれる人生の最期をあなたはどのように過ごしたいですか？

在宅療養を望む人が多い一方で、医療機関で亡くなる人が8割を超えており、多くの人が最期まで自宅で療養することは難しいと思っています。住民の皆さんに「在宅医療が療養の場の選択肢のひとつである」ことを知っていただき、またそれを支える関係機関の皆さんが連携して在宅医療の取り組みがさらに強化されますよう下記のとおり講演とシンポジウムを開催します。

日時：平成23年11月27日（日）14:00～16:30（開場13:30）

会場：ピーポート甘木（中ホール）  
（朝倉市甘木198-1 朝倉市総合市民センター）

テーマ：『あなたにとって幸せな最期とは  
～在宅療養で豊かな時間を過ごす～』

内容：■基調講演  
「畳の上で死にたい～願いを叶えるための3条件～」  
講師・波多江 伸子氏（作家・倫理学研究者）  
■オカリナ演奏（地元オカリナサークルより）  
■シンポジウム「地域で支える緩和ケア」  
コーディネーター・名取 一幸氏  
（北筑後地域在宅医療推進協議会副会長）

◆シンポジスト

- ★在宅医の立場から（柳 純二氏）
- ★家族の看取り体験から（西依 和子氏）
- ★訪問看護ステーションの立場から（結城 千賀氏）
- ★北筑後地域在宅医療推進協議会から（坂田 高氏）  
（北筑後地域在宅医療推進協議会長）

※お問い合わせ先：  
福岡県北筑後保健福祉環境事務所健康増進課  
（TEL：0946-22-3964）  
又は、朝倉介護保険事業者協議会事務局

協議会ホームページへ今すぐアクセス！ <http://www.asakura.in>

朝倉介護

検索



## 特別記事

### 被災地 復興支援レポート



譲渡先決定の連絡を受け、早速運搬計画に取りかかり、譲渡車両2台と現地移動車両1台の計3台、スタッフは筑後地区の社会福祉法人6施設から有志7名で陸送を行う事と致しました。

■8月6日(土) 太宰府ICから仙台宮城ICまでの1,500kmを1台2名交代で1日10時間2日を走破し、譲渡車両も万全な整備により致命的な故障も無く無事仙台市に到着(8月7日21:00)することができました。

■8月8日(月) 仙台市を出発、宮城県北部の南三陸町のボランティアセンターへ夏物衣類、タオルケット、蚊取線香殺虫剤等の支援物資を提供し、被災地視察を行なった後、石巻市へ移動しマイクロバス譲渡先である特養へ無事引き渡しを行い仙台市へ戻ります。

■8月9日(火) 続いて2台目の訪問入浴車の引渡を行うべく仙台市より宮城県南部阿武隈川の辺、柴田町の特養へ向います。訪問入浴車をお渡しする特養は、全国で最初に訪問入浴事業を行った法人という事でも有り、譲渡される車両もそのルーツに触れ、そこで活躍することが出来るという事に感慨深いものを感じました。併せて引渡しの際、宮城県における老人福祉施設の被災状況についてもお話を聞く事ができました。被害状況については別表をご覧下さい。宮城県下でも多くの施設が被災し、利用者職員共にその尊い命が奪われました。建物は壊滅状態となったが、1人のケガ人も無く避難を完了できた施設もあれば、訓練どおりの避難を完了した後に、警察や消防の介入により結果的に被害が拡大してしまったと思われるケースや、雪が舞い降り寒い季節で津波から難を逃れても低体温で亡くなった方々のお話を聞くにつけ、想定を大きく上回る災害だただけに悔やまれる事、逆に悔やみきれない現実も存在し、複雑な思いです。



皆さんも災害対策には万全を期してあると思います。今回、被災地でのお話を伺った後に思った事は、普段から出来る限りの想定を行い、ベストと思われるできるだけシンプルな有事行動を確立し、1日24時間、1年365日 指示者が結果責任に惑わされる事なく、そこに居る誰かが迅速に避難指示を行える体制を整えておくことが重要であるという事です。(表現は簡単ですが実に難しい課題です。)

(別表)

被災施設数 23施設	死者 263名
(特 養 10施設)	利用者 216名
(ケアハウス 2施設)	
(デイサービス 11施設)	職 員 47名
【水施設 18施設】	
【擁壁崩壊・地盤沈下3施設】	
宮城県老人福祉施設協議会調べ	

訪問入浴車の引き渡しを終え、名取市の被災状況を視察し仙台に戻ります。

前日は南三陸町の被災状況を視察したのですが、名取市の被災状況は全く異なるものでした。

塩釜港からの北部は太平洋側特有のリアス式海岸であり、深い入り江の奥一つひとつに町があります。大津波は深い入り江に入り込むところでその勢いと高さを増し、町は内陸側から扇状地となっているため、津波の勢いは弱まることなく町の奥深くの高台まで全てを押し流していました。初日、南三陸町に入った瞬間、海に向かって町が消滅し、瓦礫が山積みされ、鉄骨だけになった防災庁舎、漁船が乗ったままの志津川病院を目の当りにした時は、経験した事のない胸苦しさと共に目頭が熱くなりました。何度も震災報道で目にしていたにもかかわらず、これほどまでに衝撃を受けるとは思ってもいませんでした。





## 特別記事

### 被災地 復興支援レポート

一方、名取市は塩釜港以北のリアス式海岸とは対照的に、ゆりあげビーチなど海水浴場が点在する砂浜と松林からなります。沿岸部は南北広範囲に渡って津波が押し寄せましたが、宮城県北部の沿岸とは又違った様相でした。海岸直近は津波の直撃でやはり建物は破壊されておりましたが、海岸と並行して流れる貞山（ていざん）運河から内陸は比較的被害が少ないように感じられました。あるポイントから突然被災の度合いが違っているといった状況です。それでも内陸の相当部分のあちこちに船舶が点在している状況です。今回の震災で、100年分のゴミが排出されたとも言われる瓦礫の山は防波堤代わりに沿岸部に聳え立つ情景はやはり衝撃的でした。



■ 8月9日（火） 宮城滞在最終日は、石巻市の渡波地区で津波による被害を受けた海苔工場の復旧ボランティアを行いました。海苔を専用のコンベアに吹き付け乾燥させる機械の整備を行うために、震災当日、製造途中だった海苔を専用コンベアから剥がす作業です。

1枚のコンベアに10枚の海苔が製造されるようになっていきます。海苔を1枚1枚手作業で剥がしてゆきます。この日我々有志4名と他のボランティア4名で、合計1,300枚のコンベアから13,000枚の海苔を剥がしました。ここ渡波地区は「ON THE ROAD」というNPO団体を中心となって復興支援を行っています。この団体の代表者をはじめボランティアリーダーの方々は皆さん20代から30代の若い方でした。震災発生2週間後には被災地入りし現在も支援活動を行っています。復興支援には一般のボランティアから特殊技術を要するプロフェッショナルな方々のコーディネーターや、資金や資機材の確保、現地コミュニティの再生など多岐にわたる支援を行っておられます。



こういった方々が本当の意味でこの国を支えてくれているんだと気付かされたと同時に、「今の若い者は…」と良く口にもし、耳にもしますが、「日本の若者は大丈夫！本当に頼りになる。」誇らしく思います。ON THE ROADの代表者とお話しの中で、この活動は「心から楽しんでやらなければ続かない」楽しみとは「被災された方々の顔に笑顔が戻る事」「物事をポジティブに考えるようになる事」そうするために「我々も楽しんで復興支援を行っています。」

震災発生後、被災された方々に「何と言って声を掛ければ良いのだろう」と考えていた自分に明確な答えが出たような気がしました。被災者ではない自分がどれだけ考えても被災された方々の癒える事はないであろう深い心の傷に共感する事はできません。

出来て察する事ぐらいでしょう。しかし、被災された方々も「このままではいけない」と明日に目を向けようとした時に、そっと力強く手を差し伸べるように「笑顔で」、決してお節介にならないように。

何か、日頃からの我々の仕事にも共通するものだとも思うのです。仕事とは？誰のために？何が必要で？それは必要とされていること？被災地東北への想いを、自らの仕事にも照らし見つめる必要が沢山ありそうです。

■ 8月11日（木）無事支援活動を終え、1,500km 2日間の帰路につきました。震災発生から震災発生から6ヶ月を経過する現在においても被災地によっては、復興ではなく復旧もままならない地域が数多く存在します。愛する家族を失い、全てが流され変わり果てた故郷の中で、今も今日より明日へ向って力強く生き抜く多くの方々がおられます。8月12日、ライトアップされた関門海峡を目にし、帰宅の無事を感じた時、私の身の回りの全てが変わらず待っている事に心からの感謝が湧き上がると同時に、被災地に対する息の長い支援を続けたいと強く思いました。

この度の活動におきましては、先ずもって車両譲渡のご承諾を頂いた各法人理事長の皆様へ心からの感謝を申し上げますと共に、支援活動に対し深いご理解のもとスタッフの背中を押して頂いた理事長・施設長の皆様とスタッフ不在の間、通常業務の遂行をして頂いた関係各施設の職員の皆さんに厚く御礼を申し上げます。又、車両譲渡のご理解と災害派遣等従事車両証明の発行をして頂きました筑前町田頭町長、突然の支援物資の協力で快く応じて頂いた城山荘 野田さん、ケアハウス大刀洗 渡辺さん、ご協力いただいた多くの皆様へ感謝申し上げます。

最後に、今後も息の長い支援活動を行いたいと考えておりますので、引き続き皆様方のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。ご報告とさせていただきます。





## 事業報告 I

### 第2回スタッフセミナー

#### 「いつまでも若さを保つ食事 ~身体が喜ぶ食事学~」



平成23年7月13日（水）、今年度の第2回スタッフセミナーがピーポート甘木中ホールにて開催された。NPO法人 栄養ケア・ちっごの管理栄養士、原清子氏を講師に迎え、私たちに最も身近な「食事」が「身体」にどのような影響をもたらしているかの解説がなされた。

昨今、年代を問わず問題視され始めている生活習慣病・メタボリックシンドロームを例に、現代の食生活の問題点や健康維持に向けた栄養の基礎知識などが紹介された。

主食・主菜・副菜・副々菜・汁物といった元来の日本型の食事は、使用する食材も含め現在、世界的に注目されている健康食。それを軸にしながらお菓子やお酒といった嗜好品の摂取を加減したり、減塩やサプリメントによる栄養補助、バランスの取れた規則正しい食生活の確立、適度な運動をすることが生活習慣病などを予防し“若さを保つ”すなわち健康維持に繋がることが解説された。



#### 世界が注目する日本型食生活



#### 若さを保つ食事

- ・大豆や大豆加工品をとる
- ・過剰な塩分は摂らない
- ・魚はたくさん、  
肉はバランスよく
- ・牛乳や乳製品を摂る
- ・野菜や果実を欠かさない
- ・食卓は明るく、楽しく！

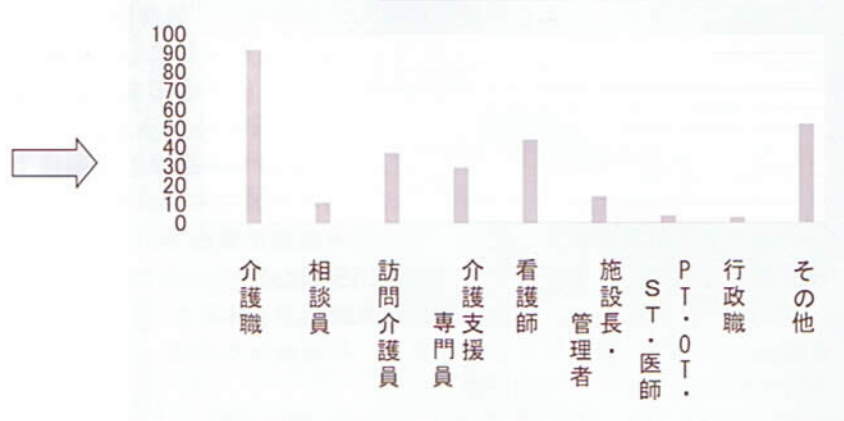
家森幸男著「脳と心で楽しむ食生活」より

# 事業報告 I

## 第2回スタッフセミナーアンケート

(1) 参加者数 286名

一般		
1	介護職	92
2	相談員	11
3	訪問介護員	37
4	介護支援専門員	29
5	看護師	44
6	施設長・管理者	14
7	PT・OT・ST・医師	4
8	行政職	3
9	その他	52
合計		286



(2)

参加地域	業種	職種
旧夜須町 27	居宅介護支援	介護職 80
旧三輪町 45	訪問介護・入浴	相談員(病院、施設、福祉用具貸与) 12
旧甘木市 76	訪問看護	訪問介護員 16
旧朝倉町 19	訪問リハビリ	看護師 24
旧杷木町 19	通所介護	OT 2
旧小石原村 5	通所リハビリ	PT 1
旧宝珠山村 12	福祉用具貸与・住宅改修	ケアマネジャー 18
その他 20	居宅管理療養	栄養士 14
合計 223	グループホーム	保健師 1
	介護福祉施設	薬剤師 2
	介護保健施設	調理師 6
	病院・医院	管理者 29
	支援センター	事務職 11
	小規模多機能	行政職 1
	行政	その他 6
	その他	合計 223
	合計	合計 223

(3) アンケート回答者数 223名

1	非常に良かった	89
2	良かった	103
3	普通	23
4	良くなかった	3
5	未記入	5
合計		223
アンケート回答率		78%

(4) スタッフセミナー参加のきっかけ

1	協議会よりの案内	94
2	協議会のホームページ	2
3	事業所からのすすめ	114
4	知人からの進め	1
5	その他	12
合計		223

(5)

① 講義内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の大切さが分かった。何気なく食べていた物を見直したい。</li> <li>・先生の話が分かりやすかった。食事の大切さ、健康の有難さをついっ忘れてしまいます。いい気づきができました。</li> <li>・画像が多く説得力がありこれからの食生活に役立てようと思った。食べ物が沢山あり過ぎて選択する力がないときちゃんと健康管理ができないと思った。</li> <li>・毎日の料理を作るうえで、家族の健康を常に考え好きなものや出来合い物を極力減らしてできるだけ野菜を摂るように努めようと改めて深く感じました。</li> <li>・食については、「わかっていても変えられない」だと思います。知識よりも、禁煙やダイエット、生活習慣改善の成功について話を聞きたかった。</li> </ul>
② 内容・在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間のオーバーはやめて欲しい。ためにはなるが、仕事後でもあり時間にはいつも終了して欲しいです。</li> <li>・食育(子ども、高齢者)についてもっと詳しく聞きたい。</li> <li>・前回のストレスの話もでしたが、自分におこりうる課題をお願いしたいです。</li> <li>・ターミナルについて実際看取りされたホームの方からお話を聞いてみたいです。</li> </ul>
③ 協議会への要望等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時には杷木や旧朝倉町でセミナーをやっていただきたいです。</li> <li>・他職種とのかかわり方などの研修があればと思いました。</li> <li>・私語の多い方に困ります。何か良い方法はありますか？</li> <li>・いつも毎回の参加、要望よりも協議会のお世話をされている方に感謝してます。おまかせ致します。</li> </ul>



## 事業報告Ⅱ 部会活動報告

### 福祉用具部会

あかつき株式会社 熊谷 聖徳

福祉用具部会では、朝倉介護保険事業者協議会に於けるサービス事業者間の協働作業によって、この朝倉地区での床ずれ発生を早期に発見し、利用者の「苦痛軽減・床ずれ発生0」を目指すネットワークのシステム作りを趣旨として3年前より活動を開始致しました。幸いに日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会の堀田由浩先生のご協力を頂く事が出来、1年目は、堀田先生による年3回の講演会の実施、2年目は、「床ずれ予防勉強会」を立ち上げ、褥瘡予防に関するトランスファー実習、エアマット選定、栄養、排泄ケア、OHスケール等の勉強会の実施、3年目の今年度は、「褥瘡予防研究会」として発足しましたが、先ず、組織を明確化し、代表を看護師でありケアマネージャーの池田由加里氏、副代表をケアマネージャーの梅木ゆかり氏に成って貰い、福祉用具部会が事務局の立場で対応する事で、組織化された「褥瘡予防研究会」として、スタートを切る事が出来ました。

メンバーは、15名で、池田代表、梅木副代表を中心に看護師、PT、OT、管理栄養士、介護士、相談員等各職種の方に参加して頂き、力強い限りです。

研究内容としては、朝倉地区での床ずれ実態調査・把握、データ分析、事例検討と進んでいきます。8月には、早速、実態把握の為のアンケート調査を行い、63事業所からの回答を頂いており、床ずれに対しての関心の強さと協議会への協力が伺えます。多忙の中でのアンケート調査のご協力ありがとうございました。今後、会員の皆様にも、積極的に関わって頂き、地域全体で「床ずれ0」を目指して行こうと考えていますので、ご協力の程、宜しくお願い致します。



(褥瘡予防研究会のメンバーによる検討会)

### 訪問リハビリ部会

太刀洗病院 楠田 智仙

現在、訪問リハビリ部会は全6事業所の参加で、定例会年5回と合同部会を開催しています。拡大会議報告・勉強会を中心に、悩み・不安な点、困難事例に対し様々な意見を出し合っ情報交換をしています。中には、奥が深く解決に結びつけないこともあります。

私は、人生の半分をリハビリの仕事に携わっていますが、部会に参加し会員の方々より教を請うことがまだまだ沢山あります。皆、向上心と高い士気をもって仕事にのぞんでいます。

来年度は大きな改定が予想され、もっと強い連携と協働をしながら足並み揃えて頑張りたいと思います。訪問系の仕事は重責があり大変ではありますが、利用者ありきのサービスを提供していきたいと思っています。

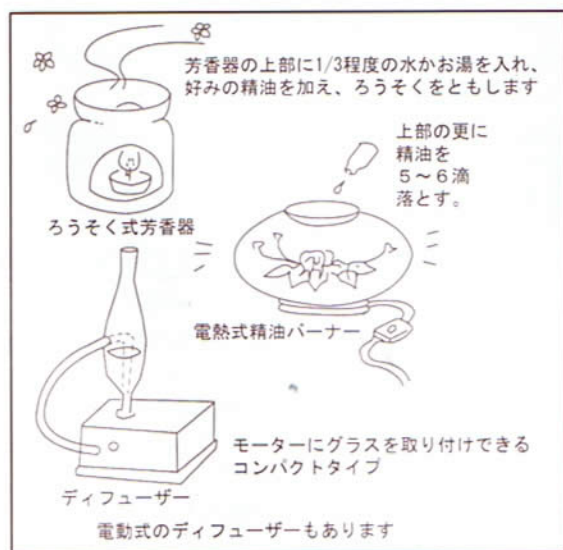




## Hobby Box

### ～ アロマの部屋へようこそ！！ ～

太刀洗病院 中原 文枝 さん



イライラする、集中力がない、なんとなく気分が落ち込む等、仕事や家事、子育てなどで悩んでいた15年前・・・そんな時、心と身体のアバランスを穏やかに解消してくれるアロマセラピーに出会いました。

アロマセラピーは植物の葉や花などから抽出したエッセンシャルオイル（精油）を使用します。50本分のバラの花びらから1滴の精油しか採れません。有効成分がギュッと濃縮されているので、使用上の注意を守って安全に使います。

- ・精油は品質の良いものを選ぶ。
- ・子供の手の届かない所へ保管する。
- ・精油は直接肌につけない。
- ・妊婦や乳幼児への使用は注意する。
- ・精油を飲まない。
- ・精油を開封したら早めに使用する。

アロマセラピーは、「治すというより人間が本来持っている自己治癒力を呼び覚ます効果がある。」と考えた方がよいと思います。心地よいと感じる香りや、好きな香りを見つけて、生活の中に取り入れています。例えば、心を穏やかにしたいときにはラベンダー、気持ちを明るくするときにはオレンジ、風邪気味の時ユーカリやティトウリー、夫と仲直りしたい時はイランイランやジャスミンの精油をアロマライトに数滴落として、室内芳香浴を楽しんでいます。また、どの精油にも殺菌作用があり、部屋の空気をきれいにし細菌から家族を守ってくれます。

その他、ヘアスプレー、シャワーコロン、化粧水等を手作りし使用することで精神的、肉体的疲れから解放され心豊かな生活を楽しんでいます。

## My Way

### グループホーム弘医荘の吉川 幸子さん

今回の紹介者は「グループホームすずらん 飯田 たまえ」さんです。

グループホーム弘医荘の吉川幸子さんを紹介させていただきます。

私がグループホーム部会に参加し不安だった時にも、あの素敵な笑顔で話しかけて下さったおかげで安心できた思い出があります。

地域の方との交流も活発にされており、陶芸教室では利用者様の思い思いの作品が出来る様に力を入れ、年1回の陶芸展を開催されています。これも吉川さんの人脈だと思います。

管理者としてのお仕事も熱心に勉強され、忙しい毎日の中、私が相談しても、いつも明るい声で的確に話される、とても頼りがいのある方です。

吉川さんの笑顔を見ていると、周りの人までつい笑ってしまいそうになり、幸せな気分になります。

これからも楽しく元気で仕事ができる様に素敵な笑顔で頑張ってください。



次回は吉川 幸子さんからのご紹介で

たちあらい訪問看護ステーションの 平野 美幸さんです！



## 介護スタッフリレーコラム

### 「訪問看護への想い」

介護老人保健施設サンビレッヂ朝日ヶ丘 介護福祉士 田中 正一

私にとって利用者様の笑顔は最高のプレゼントです。

この福祉業界に身を投じ早8年が経ちました。思い返せば、慣れない業務の中、自信を失くしてしまうような出来事も経験しましたが、その度に利用者様の笑顔に助けられてきたように思います。「笑顔の持つ力」を日々感じながら働く中で、私もいつの頃からか「皆さんの笑顔を引き出していく事の出来る介護福祉士になりたい」と思うようになり、まだまだ力不足ではありますが、自分なりに頑張ってきました。

入職して約5年間デイケアに在籍し、2年前に入所に異動しましたが、私より5回り上の今年98歳になれるデイケアの利用者様からは、「あなたの笑顔は良かった」というお言葉を頂き、大変嬉しい気持ちになりました。このような関わりを通じ「こちらが笑顔で対応すると自然と笑顔が返ってくる」と言う事を、またひとつ学ばせて頂きました。

しかし、この「笑顔で対応する」という当たり前のことがなかなか難しい時もあるのが現実です。ですが、そんな時こそ私たちはプロ意識を持ち、対応をしなければならないと思います。一人ひとりの利用者様の本当の思いや気持ちを敏感に理解しながら、それぞれの方がより良い生活を送っていただけるように常に意識し行動すれば、たくさんの利用者様の笑顔を引き出す事が出来るのではないかと思います。

仏教では「無財の七施」の中に何も持たずとも相手を幸せに出来る「和顔愛語」（わがんあいご）和やかな笑顔と優しい言葉で他人に接するという言葉があります。

利用者様にとっても笑顔で接する事により、より安心感が生まれ何より心地よい気持ちなり、ひいては接遇やリスクの軽減につながると思います。これからも施設の名前にあるような利用者様一人ひとりが太陽の様な笑顔を咲かせられる最高の居場所となるよう頑張っていきたいと思ひます。

## 徒然日記

### ～ 第二の故郷 ～

たちあらい訪問看護ステーション M・H

小麦畑の美しさに魅せられ、この朝倉の地に移り住み、早15年。知り合いがいなかったこの町に、仕事や子供を通じ、たくさんの人たちと知り合うことができました。

特に、私が住んでいる住宅街は、皆仲がよく、助け合って日々過ごしています。

以前は、幼稚園から大学生までもが一緒に外で遊び、親は井戸端会議。雨が降ると、声を掛け合い取りこんでくれる。料理していて、ちょっと足りないものがあると、“ある？”と声かけしやすい・・・そんな昭和の風情がたまたまようご近所さん！

今どきなかなか無いですよ。

このようなお付き合いができるのは、お互いに思いやり、助け合えるところは助け合い、「お互いさま」の心で過ごしてきたからではないかと思ひます。

今は、子供たち共々、就職や結婚で離れて行っているけれども、なぜか年に1回必ず行うパーベキューには皆自然と戻ってくる。

ありがたい・・・第二のふるさと・・・  
この地に住んで本当によかった！！

## 編集後記



Photo by DigitalGlobe-Imagery

東北の地震で被害を受けた土地が復興に向けて進む中、大臣が「死の国」発言や「放射能をうつす」という趣旨の発言をして辞任しました。被災地の方々の「土地を返せ、土地を返せ」と苦難の声が聞こえてきそうです。北国には、一つ目三指の“泥田坊”という妖怪がいます。月夜の晩に「田を返せ、田を返せ」と恨みの絶叫が響き渡るそうです。その妖怪は、知恵と慈悲の二つ美德で抑え込むことが出来ると言われています。しかし、もっと恐ろしいのは福島原発事故です。以前、海底に潜んでいたジュラ紀の恐竜が放射能を浴び、突然変異して生まれたゴジラや怪獣たちが暴れまわる映画がありました。映画のように日本を破壊されてしまうのではないかと。そして、本当の怪獣は、誰・何なのかを考えさせられます。きっと、また忘れた頃に人類に向けて警笛を鳴らしてくるに違いない。（楠田）

事務局

朝倉介護保険事業者協議会 事務局  
〒838-0814 福岡県朝倉郡筑前町高田2311  
特定非営利活動法人 武光福祉会  
TEL (0946) 22-9743 FAX (0946) 22-5465

編集 / 発行所

朝倉介護保険事業者協議会 広報部  
〒8380-0228 福岡県朝倉郡筑前町二242-17  
(有) 咲楽 介護用品ハーテック  
TEL (092) 926-8109 FAX (092) 926-8109  
印刷 / 井上総合印刷株式会社